

市民によるマニフェスト検証大会実行委員会

市民によるマニフェスト 検証大会報告書



目 次

【はじめに】

検証大会を終えて	1～2
検証大会の経過	3

【問題提起】

1. PDCAサイクルの形成に向けて	4～5
2. マニフェストサイクルを定着させるための前提条件	6～8

【検証結果】

1. 評価の悪い施策と今後の取り組みについて	10～11
2. 評価委員着目施策について	12～14

【感想・アンケート】

実行委員の感想	16
当日のアンケート結果	17～18

【資料編】

— 別 冊 —

報 告 書

市民によるマニフェスト検証大会

開催日 2010年9月20日

開催場所 草津アミカホール

主催 市民によるマニフェスト検証大会実行委員会(事務局:社団法人草津青年会議所内)

市民によるマニフェスト検証大会を終えて

私たちは、前回の草津市長選に際して公開討論会(2008年2月13日)を実施いたしました。

この市長選では、候補者がそれぞれ充実した内容のマニフェストを掲げたことにより、草津市におけるマニフェスト型選挙の幕開けとして刻印されました。

公開討論会では、教育・子育て支援、環境、福祉・男女共同参画、防犯・防災、経済、地域文化、市政・財政の7つのテーマで政策を論じていただき、また候補者間のディベートを試みてみました。



市長選挙において、どの候補者に今の草津、そして未来の草津を託すべきなのかを市民が自らコミットすることができたという意味で、市民主権のまちづくりの新しい一歩を踏み出したと言っても過言ではありません。



そして、自分たちが選んだ市長が、あるいはたとえ支持した候補者とは違った場合でも「市民との契約」が成立したマニフェストがきちんと守られているのかどうかをチェックし公表していくことが更なる市民主権のまちづくりの発展につながるとの信念で今年の8月21日、そして今年の9月20日と毎年マニフェスト検証大会を実施してまいりました。

取り分け、今回は2年目となる市長任期の中間となるものですが、いくつかの課題を残したとはいえ、市長マニフェストで「2年後、4年後に、市民のみなさまにマニフェストの進行状況を検証していただき、結果を公表します。」と明記されたことがこうした活動を継続していく上で非常に大きな意味を持ちました。

また「橋川わたるは、強い気持ちで約束を守ります。」「市民のみなさまも、このマニフェストがしっかり守られているか、私の仕事ぶりに目を光らせていただき、少しでも守られていないと感じたら、どうぞ厳しい意見をお聞かせください。」「事後の検証ができるように、具体的な内容とともに必要な費用や実施期限なども明示いたしました。」といった、マニフェストを遵守し、またこれを市民から検証していただくという姿勢こそが市民のモチベーションを高める原動力となっています。



そういう意味で、市民と共に草津の未来を創っていくというコンセプトをもった市長を得たことに感謝の意を表すると同時に、今後もこうした基本姿勢をマニフェストに掲げる候補者を市民が選択するという視点が定着することを願っているところです。

さて、今回の検証にあたってはより多くの市民の皆さまと一緒に幅広い意見を頂戴しながら進めていきたいとの考えから実行委員会形式を取り、市民活動団体や一般市民の方々に企画運営への参画を広く呼びかけいたしました。

しかしマニフェスト検証というと、「立場的に難しい」「行政への批判はできない」といった答えが返ってくることもあり、マニフェスト＝政治活動であり市民活動の立場では参加すべきではないという考え方が根強くあるようです。一方でこれまで行政が公共を担い、また公共の代表者として施策を実施してきた時期が続いてきましたが、草津市では先代市の市長が贈収賄で逮捕されるといった衝撃的な事件が発生し、また財政難や多様化する価値観やニーズの中で行政に公共の担い手として権限をすべて移譲しておくことができない時代となっています。

そうした中で、今後のまちづくりをどのようにしていくのかという理念を掲げ、またそれを実現していくための具体的施策や手法、期限、財源までも明記するマニフェストを掲げ、任期中はそれにもとづいて市政を行うということが地域にとって不可欠な要素になりました。

ただし、これは必要条件であって十分条件ではありません。

選挙で投票すれば市民としての責任を果たしたことになり後は「すべてお任せしました」というのでは、より良い市政を期待することはできません。地方自治は、市民自治が基本であり、国政と違って市民の直接関与と代議制度との相互作用によって築き上げていくプロセスこそが重要です。

そこで私たちは、マニフェスト検証の目的をP D C Aサイクルの形成を第一に掲げています。

すなわち、マニフェストというプランを選挙で選択し、その実行過程をチェックして更に良いものにしていくという品質管理のプロセスに市民が直接関与することによって、市民が主役となり、また主権者としての役割を果たし、このことによって民主主義の質を高めることこそが草津市のまちづくりにとって最も大切なものだと考えているからです。

この意味でも、マニフェストの検証は決して批判や反対運動ではありません。

また、市政の粗探しでも特定の政治主張を持った活動でもありません。

ところで、今回の検証大会では現状の問題点について、市民目線であえて厳しく指摘させていただきました。

それは、現状に満足せずよりよい市政を目指す「もっと草津！」宣言（市長マニフェスト）の趣旨と同じように「もっと草津を良くしたい」との思いからです。

こうした活動を通じて、チェック(=C)がアクト(=A)につながり、さらには市民と共にまちづくりのプランづくりやその実現のための実践がまさに「協働」でなされるようになることを目指していきたいと考えていますので、今後もどうぞよろしくお願いいたします。



最後に、今検証大会にご協力を頂いた市長、行政の皆さま、そして多くの市民の方々に感謝申し上げます。

市民によるマニフェスト検証大会実行委員会

検証大会の経過

開催日	項目	内容
4月22日	第1回打ち合わせ	引き継ぎ
4月26日	第2回打ち合わせ	スケジュール調整
5月7日	第3回打ち合わせ	検証大会の進め方
5月13日	第4回打ち合わせ	
5月21日	第1回実行委員会	勉強会&実行委員会発足
5月27日	第1回市長打ち合わせ	日程調整等
〃	小委員会	検証のための資料収集
6月14日	小委員会	資料整理と検証作業など
6月21日	小委員会	〃
6月25日	第2回実行委員会	検証方法に関する勉強会
7月2日	小委員会	資料整理と検証作業など
7月6日	小委員会	〃
7月8日	第3回実行委員会	「検証・評価シート」の協議
7月23日	小委員会	「検証・評価シート」の整理
7月26日	第4回実行委員会	〃 精査
8月2日	第5回実行委員会	〃 最終校正と決定
8月10日	第6回実行委員会	勉強会「みんなでトーク」
8月12日	小委員会	みんなでトークの振り返り
8月20日	小委員会	資料整理と検証作業など
9月1日	小委員会	〃
9月9日	第7回実行委員会	「検証・評価シート」の集計など
9月11日	第8回実行委員会	各施策の検証作業など
9月13日	第9回実行委員会	大会当日に関する協議
9月14日	第2回市長打ち合わせ	検証大会の事前協議
〃	小委員会	大会当日の最終調整
9月17日	第10回実行委員会	パネリストとの打ち合わせ
9月18日	小委員会	検証内容の整理
9月19日	小委員会	当日資料の作成など
9月20日	検証大会	於:アミカホール
9月27日	第11回実行委員会	反省会
10月15日	第12回実行委員会	報告書作成打ち合わせ
10月26日	第13回実行委員会	報告書の校正など

問題提起

本検証大会では、検証結果の報告の前にマニフェストサイクルの重要性とそれを成立させるための諸条件について問題提起させていただきました。

このコーナーでは、実行委員会事務局長の田村忠義氏からの報告や検証過程での問題点等についての報告を掲載しています。

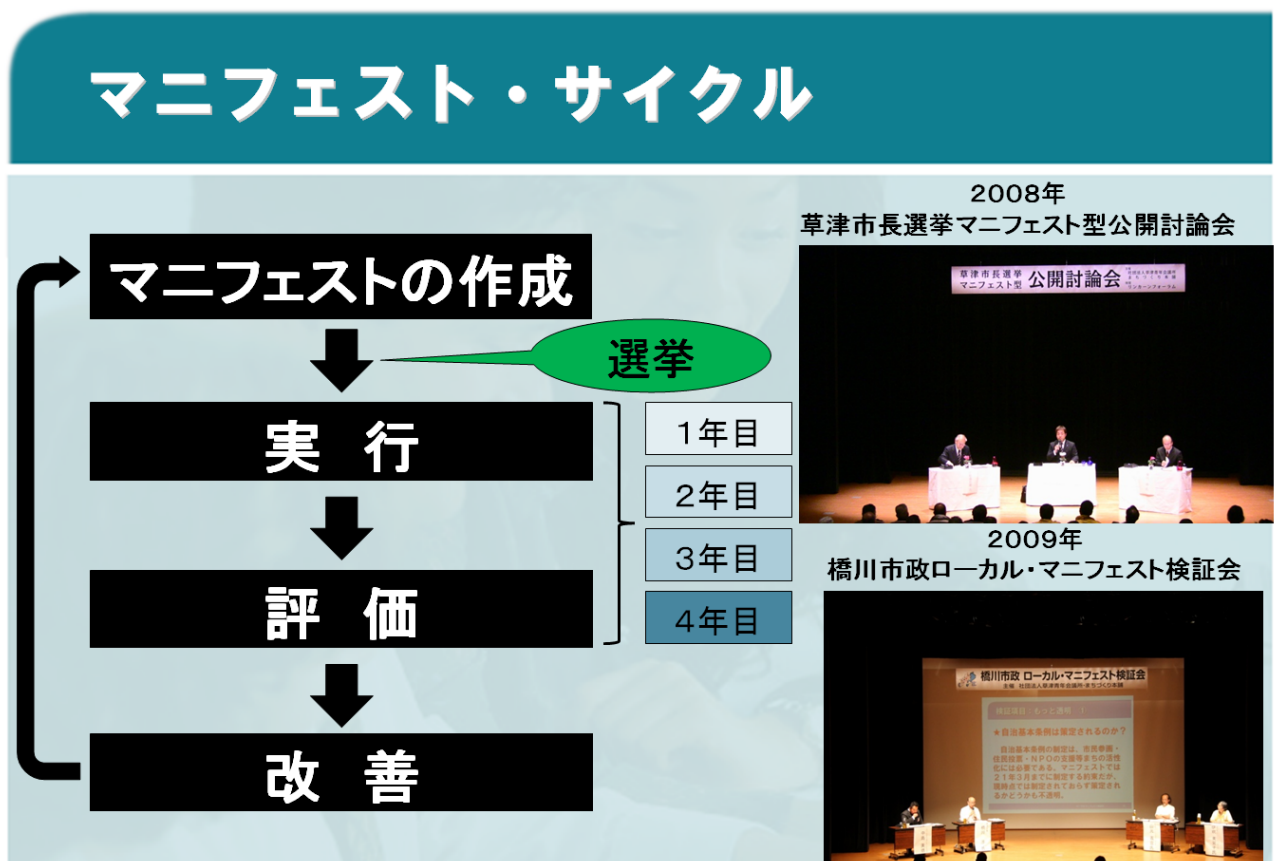
1. P D C A サイクルの形成に向けて

マニフェストは、イギリスでは1835年に初めてその言葉が使われ、1906年に労働党が政党の公約として初めてマニフェストを出しました。また現在のような冊子として出されるようになったのは1935年の総選挙において保守党が出したものが最初だと言われています。

日本では、2003年4月に行われた統一地方選挙(都道府県知事選挙)において当時三重県知事だった北川正恭氏の提唱によって始まった運動ですが、今や首長選挙ではマニフェストが「標準装備」となり草津市においても2008年2月の市長選挙から本格的にマニフェスト選挙がスタートしました。

このマニフェスト運動が政党からではなく地方自治体から巻き起こったことは偶然ではありません。三重県は、1996年に行政の中で全国に先駆けて「事務事業評価システム」を導入したことをきっかけとして、国では2001年3月に「行政機関が行う政策の評価に関する法律」が成立しています。また三重県では2002年4月からは「事務事業評価システム」を更に発展させた「政策推進システム」を導入。この経験を更に発展させていくものとして提唱されたのがマニフェスト型の選挙であり、また一連のマネジメントサイクル形成です。

このことから、当検証大会において冒頭に実行委員会事務局長よりマニフェストのP D C A サイクルの重要性について次のとおり報告いたしました。



私達は市民が主体的に政治に参加できるシステムを構築するためにマニフェストサイクルの実現を目指しています。マニフェストサイクルとは、マニフェストのP D C Aサイクルであります。

このマニフェストを実行に移る前に市民の皆様にはマニフェストを選ぶ権利があります。それが選挙です。

2008年社団法人草津青年会議所とまちづくり本舗とが共催し、草津市長選挙マニフェスト型公開討論会を開催しました。そこでマニフェストを市民の皆様が発信し、選ばれたのが今の橋川市長になります。

そして、そのマニフェストをいよいよ実行に移され、1年目の評価を昨年、橋川市政ローカル・マニフェスト検証会と題し、1年目の橋川市政のマニフェスト、及びロードマップの検証・評価を行いました。

予算化、実行、評価は毎年行われます。1年単位で検証し、4年を経て、良い意味での改善を行い、また新しいマニフェストが作られます。マニフェストサイクルが実現すると、「市民が作り、市民が選び、市民が使う」ローカル・マニフェストに成長します。そんな想いで本日の検証大会を開催いたしました。

私たちは先程お話したマニフェストサイクルの実現を目指しております。政策批判は政策論争を行うためのものではなく、マニフェストを有権者・市民の立場から検証・評価を行うことによりマニフェスト型地域経営の定着と発展を目指すというところにあります。

私達市民が政治や社会に積極的に参加することで市民の手による協働型市政経営、そして真の地方分権社会を形成することができると思います。



2. マニフェストサイクルを定着させるための前提条件

マニフェストによるP D C Aサイクルを確立する上で、市民の直接的な関与が基本条件となります。マニフェストサイクルは、行政内での評価・マネジメントシステムではなく、市民主権のローカルガバナンスを確立することが主眼となるからです。

では、市民の直接的な関与はどのようにすれば可能なのでしょうか。

まず重要なことは、行政情報を積極的に市民に発信すること、そしてその情報を多くの市民が活用し評価できるようにすることです。

今回のマニフェスト検証会は、市長や行政とは完全に独立した組織である市民による実行委員会で実施いたしました。こうした検証方法は、独立性や公平性という面では理想的な形態に向かっているとと言えるのではないのでしょうか。

しかし、市長や行政の影響力を排除するということは、逆に言うと積極的な協力を得にくいということを意味します。

幸い、市長マニフェストでは「2年後、4年後に、市民のみなさまにマニフェストの進行状況を検証していただき、結果を公表します。」と表明されていることから、私たち市民が検証を進めていく上で必要な情報の提供は理屈の上では条件が整っていたように思います。

もっと 信頼できる市政に

マニフェストの実行・評価に向けて

- 1 選挙中は、みなさまのお声を聞きながら、マニフェストを進化させます。
- 2 当選後は、すぐ(3ヵ月以内)に、マニフェスト実現のロードマップ(実行計画)をつくります。
- 3 2年後、4年後に、市民のみなさまにマニフェストの進行状況を検証していただき、結果を公表します。

ところが、実際に検証作業を進めていく中で様々な問題があることが分かりました。

私たちは特定の限られたメンバーによる検証ではなく、できるだけ多くの市民の皆さまと共に検証作業を進めていくことを目指していました。そこで、まず「評価・検証シート」を作成し全市民の1%から回収することを計画しました。

「評価・検証シート」には、マニフェスト計画に対して実際はどのような状況かということを知りやすく伝えることができないと評価や検証は困難ですが、その作成を行う時点においてはマニフェストの進捗状況の把握をするための資料の入手が非常に難しいのです。

例えば、「評価・検証シート」作成を計画した段階では、行政内でのロードマップの自己評価は作成中であり、市長の自己評価もできていませんでした。そうした中で途中経過を知ることは市民には不可能です。

これは、そもそも2年目の任期中間の評価とは何時なのか、という問題なのかも知れません。2008年3月21日に就任され2012年3月20日までの任期であれば、その中間点の2年後とは2010年3月からであり、新しい年度が始まる4月にどのような事業・予算で臨んでいくのかが明確になった時期に実施するのが理想的です。でなければ4年後の検証というのは、次の市長選が終わってから過去を回想するという形になりかねません。

私たちが準備をスタートさせたのが4月22日。昨年1年目の検証会では「6月議会が終わってからでないと難しい」との市長の意向を受けて開催が8月にずれ込んだことを踏まえて、早めに準備しましたが、市長の日程の関係で結局は9月20日となってしまいました。

結果として9月開催になった訳ですが、逆算すると7月中には「評価・検証シート」を作成することが必須の日程でした。しかし、その時点では私たちには進捗状況に関する資料がほとんどありませんでした。

こうした背景の中で、マニフェストを行政の実施計画として取りまとめた「ロードマップ」の自己評価の公表を待ちましたが、結局は7月28日にずれ込んだことから、実行委員会として「評価・検証シート」を完成させることができたのが8月初旬となり、広く市民の方々にお知らせし協力をお願いするには日程的に難しいものとなってしまいました。

更に、この状況において「評価・検証シート」をどのように広報し回収するのかを検討した結果、公共施設への設置と回収のお願いをすることになりました。しかし、行政から公共施設へ設置することについての協力を得ることができませんでした。

その原因は、マニフェストが行政の実施計画として取りまとめた「ロードマップ」とは違うという立場や草津市はマニフェストを政治活動だと位置づけられていることから起因しているようです。

この件について、検証会の報告内容は次項のとおりでした。

また、市長の答弁(資料編参照)についても併せてご覧いただければと存じます。

一方、市長が「第一回自己評価」(6月7日付)をお出しになったことは、検証するサイドからすると不可欠なものであり非常に大切なものです。

4年後の検証時にも是非タイミング良くお出しいただくことを期待しています。

検証大会での報告より

私たちは、市長就任1年目となる昨年度も、マニフェストの検証をさせていただきました。マニフェスト進捗状況の初めての評価・検証ということもあり、私たちも試行錯誤したことを覚えています。

その中で、草津市の担当窓口へ直接お話や資料提供のお願いに行きましたが、お互い初めてということもあり、なかなか思うように進みませんでした。

今年は、市長マニフェストで「2年後、4年後に、市民のみなさまにマニフェストの進捗状況を検証していただき、結果を公表します。」と書かれている2年目に当たります。

そこで、当委員会は、全市民の1%以上の方にマニフェストの評価を寄せていただくことを目標にして評価用の冊子とシートを作成いたしました。しかしこの冊子や評価シートを配布、回収のご協力をお願いしましたが、公共施設での配布、回収は許可いただくことができませんでした。そこで実行委員会メンバーで手配りしましたが、目標の枚数までたどり着くことができませんでした。

総じて言えば、私たち市民が自分たちでマニフェストを検証しようとした時にハードルが多すぎて、施策の実施状況を検証する前に資料を集めたり、調査をしたり、市民に参加を呼び掛けたりする段階でつまづいてしまうという状況になっています。これでは、マニフェストのPDCAサイクルを形成することはできません。

市民は活動費や調査力、情報量等において行政と対等ではありませんので、市民との協働が大切であると言うのであれば、対等性を確保するためには市民のこうした取り組みやアドボカシー活動なども含めて、行政が積極的に支援・協力することによって相互の対等な関係が確保されるのではないのでしょうか。



検証結果

検証大会では、評価の悪い施策や自己評価と市民評価に隔たりがあった施策、更には重要な意味を持つ施策について報告し議論を交わしました。

1. 評価の悪い施策と今後の取り組みについて

市長自己評価の結果では、A～Dの評価のうちDランクとなった施策が5項目ありました。この中で特に注目したのは次の2つの施策です。

施策	市長自己評価	ロードマップ評価
国民健康保険税の引き下げ	D	×
中心市街地活性化計画の策定	D	○
景観形成・電線電柱地中化制度を活用した街並みの保存・再生	D	△
市民ギャラリーの設置	D	△
市役所職員のボランティア活動の推進	D	○

①国民健康保険税の引き下げについて

国民健康保険税の引き下げは、議会でも論議が交わされています。

ここで簡単に紹介させていただきますと、市長は市の現職時には政策推進部長という立場で、予算・決算の大枠については掌握されており、そのことから国保の引き下げは可能であると判断をし、マニフェストに掲げられたそうです。しかし、平成20年度におきまして、後期高齢者医療制度の導入や退職者医療制度が廃止されるなど、国の医療制度改革によって約2億7,000万円の収支悪化となったことから、特定健診・保健指導分を一般会計から新たに繰り出しをしても、なお約2億円の単年度赤字となり、国保税を引き下げることができないと釈明されています。

評価委員の意見では、施策が分かりやすく、manifestoの目玉ともいべき市民生活に直結する施策ですのでこれに期待をして投票された方も多いと思います。安くなるどころか逆に上がっているとこのことで市民にも説明をし、納得していただく必要があると考えます。また、この施策を実現させるための手段手法をお考えであるならお願いします。一方で、草津市職員の給料水準が非常に高いと報道されていますが、行政の無駄をもっと徹底して無くすことによってその財源を確保することができるのではないかとこの評価委員の意見もありました。

②市役所職員のボランティア活動

職員のボランティア休暇の制度を作って、その活用を促進されていることをもってロードマップでは○の評価がなされているようですが、市民感覚から言うと有休によるボランティアというのは、大変違和感があります。更に、この施策について市長自信はDという悪い評価にされていますが、市長ご自身でも納得されていない行政の対.について、何故リーダーシップを発揮されないのかが気になりました。ロードマップで○とした行政側の感覚をしっかりと正すのが市長の責任ではないでしょうか。

検証大会での論議概要

Q:税金の無駄を無くし国保税を下げることはできないか?

【橋川市長】

国民健康保険税については結果的にはやむを得ず引き上げることになった。国民健康保険は、市民の約4分の1の方が加入されている保険制度であり、単に引き下げるという目的だけで無制限に一般会計から国保会計に繰り入れるということになと多くの市民の方の理解が得られないと考えている。

行政の無駄を無くすことに関して、事業仕分けを実施し昨年度は約1億円の経費削減を行った。この財源は色々な福祉施策や教育施策などに充てている。

Q:ボランティアに関して行政の考えは市民感覚から乖離

しているのではないか?

【橋川市長】

ロードマップではボランティア休暇制度を導入するという項目だけをあげたため○という評価となったがボランティア活動の推進については制度をつくるのが目的ではなく、制度を活用する、もしくははしなくても職員として積極的にボランティアをしてもらいたいという強い思いがある。強制はできないが、職場風土をつくるなりして更に促進していきたい。

2. 評価委員着目施策について

施策を検証する中で、特に注目した施策は次のとおりでした。

①市長の自己評価と市民評価シートの集計結果で開きがあった施策

「もっと透明」については市長の自己評価ではAが多くありましたが、市民評価シートの結果では市民は必ずしも「透明」ではないと判断しているという傾向がはっきりと出ています。特に、草津市のホームページは機能性やデザインなど非常に評価が悪いようです。実際に私達評価委員もマニフェスト検証のために資料を色々探しましたが、なかなか探しあてられませんでした。

政策4「もっと透明！」

ほんとに透明？

自己評価	市民評価				
18-1 B	A 8%	B 25%	C 37%	D 11%	E 3%
18-2 A	A 14%	B 33%	C 34%	D 11%	E 1%
18-3 A	A 15%	B 30%	C 34%	D 12%	E 2%
18-4 A	A 10%	B 29%	C 37%	D 11%	E 3%
18-5 A	A 10%	B 28%	C 40%	D 12%	E 3%
19-1 A	A 14%	B 26%	C 33%	D 14%	E 4%
19-2 A	A 13%	B 25%	C 33%	D 15%	E 4%
20-1 C	A 3%	B 16%	C 43%	D 21%	E 6%

18-1「草津市のホームページの改修」インターネット広報費605万円が評価委員の意見でも非常に高額と感じられました。削減できないのか、高すぎるのか、妥当なのか。

18-5「不透明な審議会制度の廃止」については、市長の自己評価ではAでロードマップ評価でも○となっていますが、「審議会等の会議の公開等に関する指針」が平成22年9月10日から施行されたものの、学識経験者や委員の男女比率、市民枠が芽づる方式指定席になっているのではないかとの疑問、更には議員が何故委員に任命されているのかといった疑問も寄せられています。

20-1「市民参画、住民投票制度、NPO支援などを盛り込んだ自治基本条例の制定」で、自治体基本条例については市長選において他の候補者が2年かけて作成するとしていましたが、橋川マニフェストでは1年で策定すると約束されていました。しかし、残念ながら未だに策定には至っていないと同時に、現時点では骨子案が公表されているだけで、その議論の過程や進捗状況について詳しい情報がホームページ等に

政策4「もっと透明！」

ほんとに透明？

自己評価

18-1 B

インターネット広報費に605万円も？

18-2 A

学識経験者や委員の男女比率は？

18-3 A

18-4 A

市民枠が芋づる方式指定席では？

18-5 A

19-1 A

なぜ議員が何故委員に任命？

19-2 A

20-1 C

骨子案だけで過程や進捗状況は？

は掲載されていません。これも「もっと透明」と掲げられている趣旨とは反するものであると考えます。

政策3「もっと安全！」の14-1「市民センター(公民館)の施設改善と機能充実(専従職員の配置)」については、市長自己評価ではAでロードマップでも○の判定ですが、評価委員としては機能の面で、専従職員が配置されたことによってどのように充実したかについて疑問だとの意見がありましたのでお答えください。また市民センターは日曜日や祝日が休館日となっていますが、これではまちづくりセンターの機能が果たせるとは思えません。更には、日曜・祝日の休館日に諸証明の発行事務をされていたが、事業仕分けにより廃止になったことも市民感覚としては納得しかねます。

最後に、各種計画書の策定がされています。前方画面の策定・実行といったものです。これらは、確かに計画書が策定され冊子も出されたりしているようですが、その成果や実施状況について確認することができませんでした。もし計画書の策定だけで実施がされていないものがあるならば、時間と経費の無駄になってしまいますので、どのように各計画でとりまとめられたものを実現されようとしているのかについては、是非市長にお尋ねさせていただきたいと思います。

成果や実施・実現状況について？

各種計画書の策定

草津市食育推進計画

教育振興基本計画

緑の基本計画

草津市あんしんいきいきプラン

自然環境保全・再生計画

バリアフリー基本構想

草津市産業振興計画

草津まちなか活性化プログラム

Q： 審議会に市議会議員が入ることの是非は？

【橋川市長】

審議会・委員会の委員に議員が就任いただいている点については、議員としてではなくて、あくまで団体の長とか団体の代表とかいう形で就任をいただいている。議員の参加についての是非については「何故」という部分が大事。

Q： 市長が考えておられる
「協働」とは？

【橋川市長】

協働について、2つの場面がある。一つは、市民活動団体と行政との協働。もう一つは地域の団体と行政との協働。公共的な活動をしていくときに、従来は行政が税金でこれをすべてやっていたが、非常に限られた財源の中ですべてを行政が担うということはできない。協働の取り組みの中で互いに助け合ってそれぞれの持分や得意の所を出し合って、協力と責任の分担の下に公共的活動を進めていくことが協働の意味。

具体的には、市民活動団体と行政との協働として円卓会議や公募提案型事業の制度を設けた。また地域との関わりの中では、まちづくり協議会に市からのお金でしたり、権限をお渡ししながら、地域のことは地域で解決できるようにしくみづくりに取り組んでいる。

Q： 「もっと透明!」の評価が低いという結果については？

【橋川市長】

「もっと透明!」という施策については、非常に力を入れてやってきているつもりだ。ホームページは192万円でリニューアルを行い、職員が簡単にコンテンツを作れるようなシステムにしてより多くの情報を発信できるよう努めてきた。しかし、実際にホームページを使っていたいただいている方々からもお聞きをして改善すべきところは改善していこうと思う。



感想・アンケート

このコーナーでは、実行委員の感想や
検証大会の会場にて実施した
アンケート結果を掲載しています。

(40代 女性)

市政についてそれほど興味もなく市長のマニフェストがどうなっているのかなど考えたこともありませんでした。大会に初めて参加してみて草津市のことをこれほど一生懸命考えている市民の方がいらっやっやって、自分も同じ市民なのだと考えるとなんだか恥ずかしくなっただけです。

こうやって私のように、真剣に考える市民がひとりずつ増えていくことが市民活動の意義なのかもしれないと思いました。市民が市長や役所の人たちと一緒にって同じ方向を向いて進んでいけたらどんなにすばらしいだろうと思いました。そんな草津市の未来が見えるようないい大会だったと思います。ありがとうございました。

(30代 男性)

今回初めてマニフェスト検証会に参加させて頂いて率直な感想は

1. 自分自身のマニフェストと言うものに対しての勉強不足。
2. マニフェストとロードマップの違いがわかっていなかった。
3. 自分たちの団体がどのようなかわり(協力)ができるのか理解してなかった。
4. 草津市(市長)の活動の勉強不足

自分の課題点は上記の通りです。

市長のP D C Aのサイクルをチェックする立場に入りながら、草津市のPをはっきり理解していない上でC(チェック)するのは、当然市長に対しても失礼な事で、最低でも実行委員に入った以上しっかり勉強しなくてはいけないと言うのが反省点です。

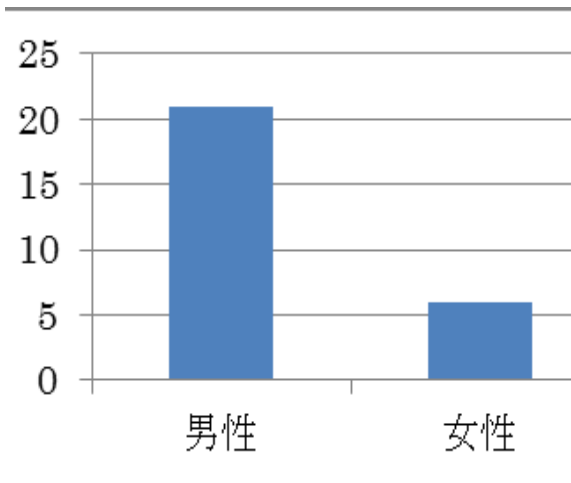
ただ、そこまで勉強するのは大変なことで、次に実行委員に入ってほしい方がいたとすれば、こんなに勉強が必要で、レベルが高い実行委員会に入れないと思うでしょう。いかに簡単にわかりやすく、重過ぎない実行委員会に出来るかが、実行委員会に入っって頂きやすく、ひいては当日一般の市民の方が参加して頂ける検証大会になるのでは と思います。大変難しい実行委員会ではありますが、自分成長のためにいい会に参加させて頂いている事、ありがたく思っています。

これからもよろしくお願い致します。

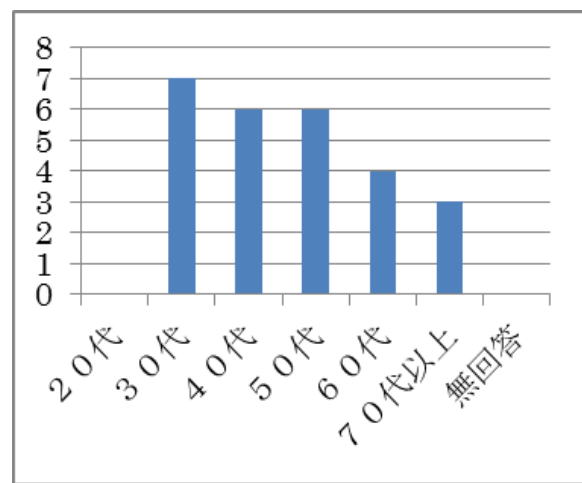


当日のアンケート結果

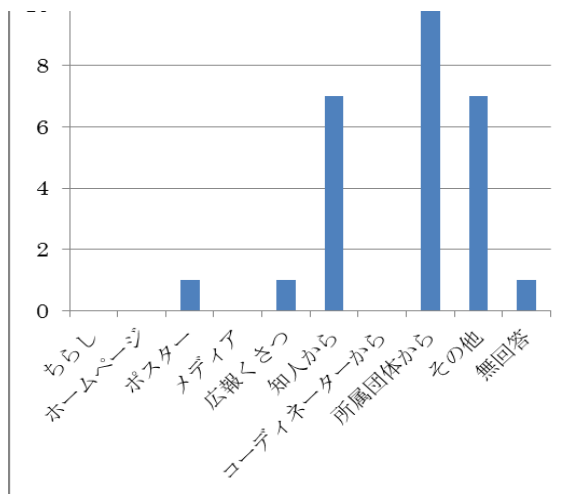
あなたの性別は？



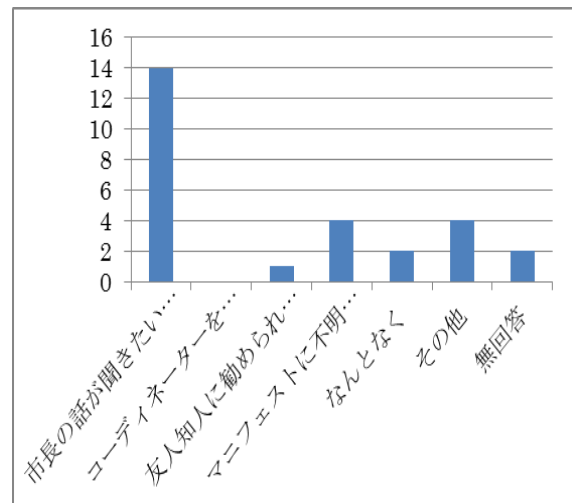
あなたの年齢は？



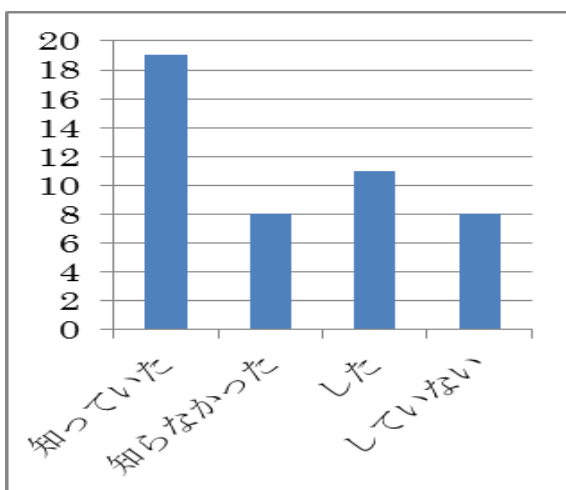
今回の『市民によるマニフェスト検証大会』の開催は、どこでお知りになりましたか？



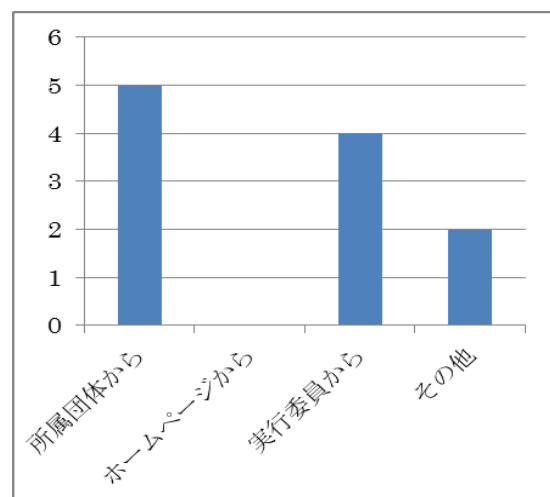
『市民によるマニフェスト検証大会』に参加した理由は何ですか？(複数回答可)



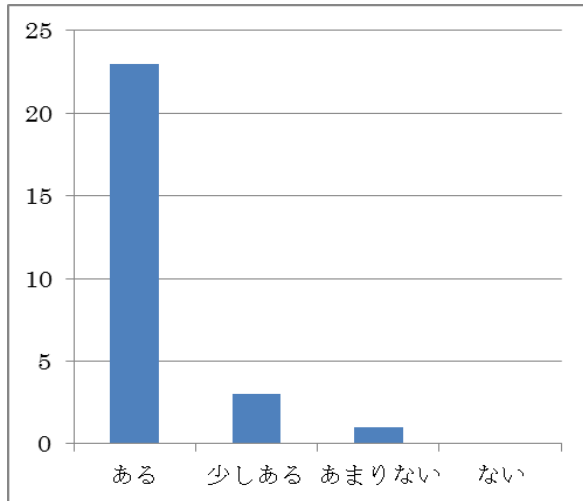
事前に行われた【市民によるマニフェスト評価】は知っていましたか？



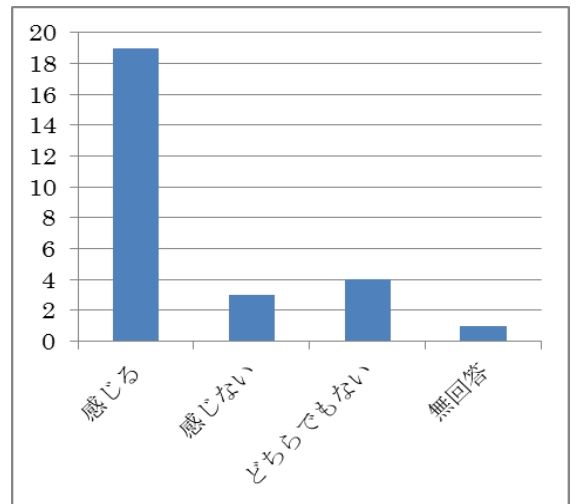
評価した方は、どこでされました



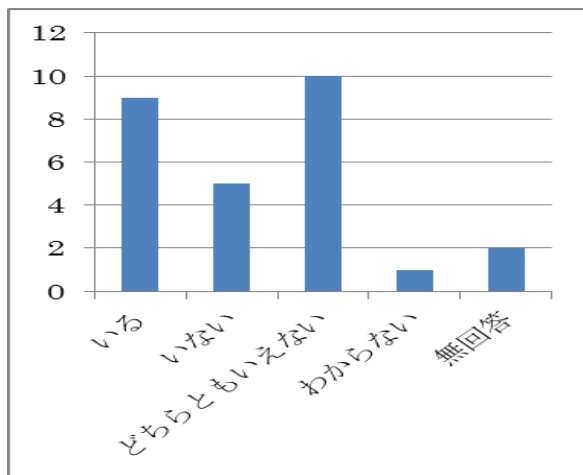
市政について関心がありますか？



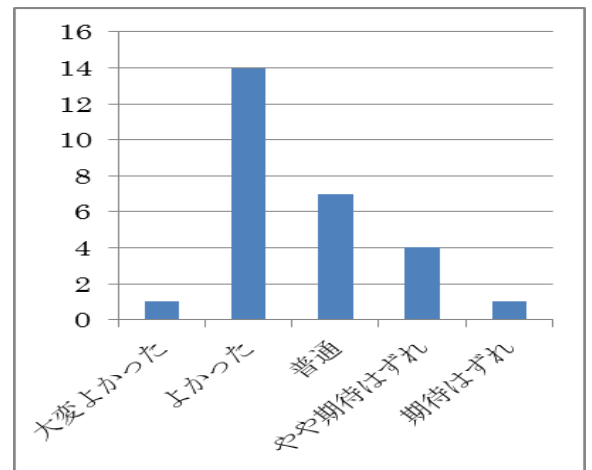
地方行政を身近に感じますか？



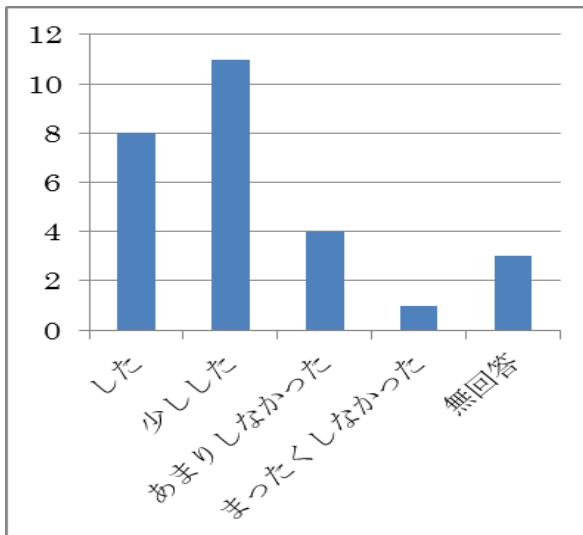
今の行政は地域の実情が反映されていると思いますか？



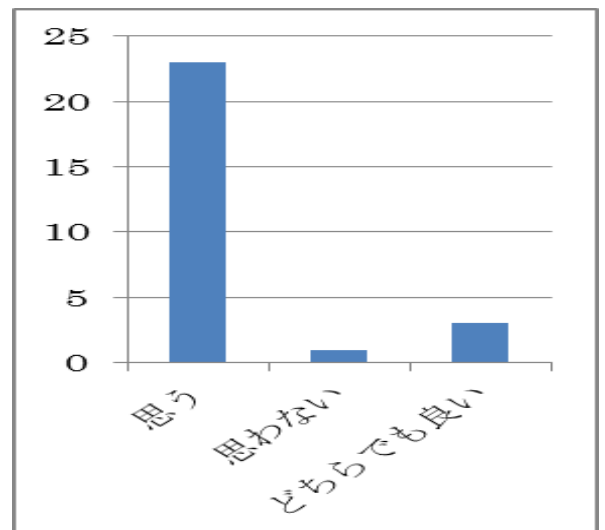
『市民によるマニフェスト検証大会』に参加してみたいかがでしたか？



今回の検証大会で、市政に対する意識は向上しましたか？



4年目も『市民によるマニフェスト検証大会』を実施した方が良いと思いますか？



資料編

検証大会での論議や資料等については、
別冊の「資料編」をご覧ください。

市民によるマニフェスト検証大会実行委員会

事務局：草津青年会議所内
草津市草津3丁目14-44木村ビル3F